

56年度の予算

予算規模

市の振興計画にもとづき、人口過疎化対策、教育文化・福祉・体育の向上、生活環境の整備、産業の振興など、各分野で積極的に施策の実現をはかり、市民の要求に対応できるような予算編成になりました。

この結果、一般会計は五十五億四千四百万円（十六％増）。特別会計では、国民健康保険事業費七億五千七百二十三万七千円（十二・三％増）、ユースホステル事業費一千九百六十三万四千円（十五・六％増）、小来川診療所費二千六百六十七万七千円（一・七％増）、下水道事業費四億九千八百八十一万三千円（七・一％減）。企業会計は、リゾート事業会計が、収益的支出一億五千三百五十五万七千円（十一・一％増）、資本的支出一億一千五百七十五万二千円（四五・六％増）。水道事業会計は、収益的支出一億九千六百三十二万二千円（四・一％増）、資本的支出六千五百四十四万四千円（一一・八％増）。

一般会計、特別会計、企業会計を合わせた予算総額は、七十三億六千六百四十六万四千円（十五・一％増）になりました。（カッコ内は前年比）

昭和56年度一般会計

歳入		(単位 千円)
市税		2,052,390
地方譲与税		48,000
娯楽施設利用税交付金		12,977
自動車取得税交付金		42,562
地方交付税		835,625
交通安全対策特別交付金		4,475
分担金及び負担金		32,747
使用料及び手数料		166,294
国庫支出金		750,320
県支出金		182,697
財産収入		63,799
寄付金		1,823
繰入金		408,844
繰越金		60,000
諸収入		294,847
市債		586,600
歳入合計		5,544,000

歳出		
議会	費	127,677
総務	費	780,591
民生	費	692,113
衛生	費	497,565
労働	費	14,962
農林水産業	費	228,988
商工	費	441,676
土木	費	582,950
消防	費	317,499
教育	費	1,544,491
災害復旧	費	2,539
公債	費	286,948
諸支出金		21,001
予備	費	5,000
歳出合計		5,544,000

今年度はこんな事業を

住みよいまちづくり

教育・文化・体育

日光小学校建設の継続事業として、体育館、水泳プール、校庭、夜間照明、ソーラー設備などの事業に七億七千五百万円。同校の通学歩道橋設計委託関係に八百五十万円。清滝小学校老朽校舎の建替事業に一億五千九百万円など、教育施設の整備を進めます。

社会教育面では、県のモデルコミュニティ地区に指定された中宮町地区に、六千五百万円をかけて公民館を新築し、地域づくりに努めます。

体育施設では、明春開催される国体冬季大会に備え、細尾リンクを九百八十万円で改修するとともに、

社会福祉の充実

に、インドアスケートリンクの建設についても、県当局に対し、早期実現を要請します。

今年度は国際障害年を迎えるため、障害者福祉をはじめ、老人福祉、児童福祉、母子福祉などをさらに充実させることに努力。体育館隣りに二百六十万円でグリーン広場を設置して、老人や障害者のスポーツの広場、憩の広場として利用していただきます。

国民健康保険も、加入者の負担を抑制するため、繰出金の増額をしました。

また、過疎化対策の一環として実施した宅地分譲地については、

生活環境の整備

まず、市道の舗装・改良は、一億七千万円をかけて三十八路線、約五千坪を整備。用排水路も一千八百万円で五か所を改修します。

市営住宅は、五十五年度の湯元につづき、中宮町地区に同様のものを建設する予定。

下水道事業についても、日光処

産業の振興

観光・商工中小企業の育成助長をはかるため融資事業の拡充を行います。

観光施設面では、霧降高原のリフト増設に九千三百万円、同高原の第二駐車場舗装工事に一千百万円をかけて施設を整備し、観光客の受入れ体制を強化。

農林業の振興対策としては、農道を四路線、千五百坪を舗装し、林道においても、五路線、三千坪の開設を行い、農林産物生産の向上をはかります。